

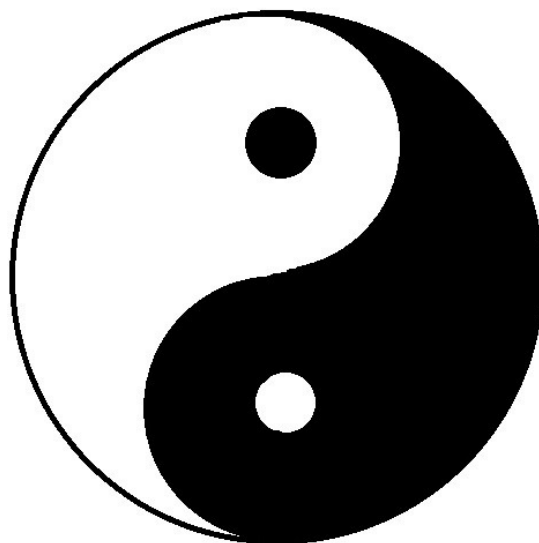
2 章 哲学

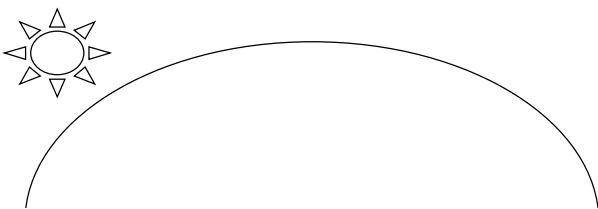
西洋医学を学ぶにあたっての哲学は一通り学んできた

しかし東洋医学を学ぶにはそのための哲学、つまり
古代中国人が自然をどのような構造だと理解していたか
知る必要がある

古代中国人はまず2つに分ける陰陽論を考えた
そして不十分な点があったため5つに分ける五行論も導入した

1. 陰陽





陽

など

陰

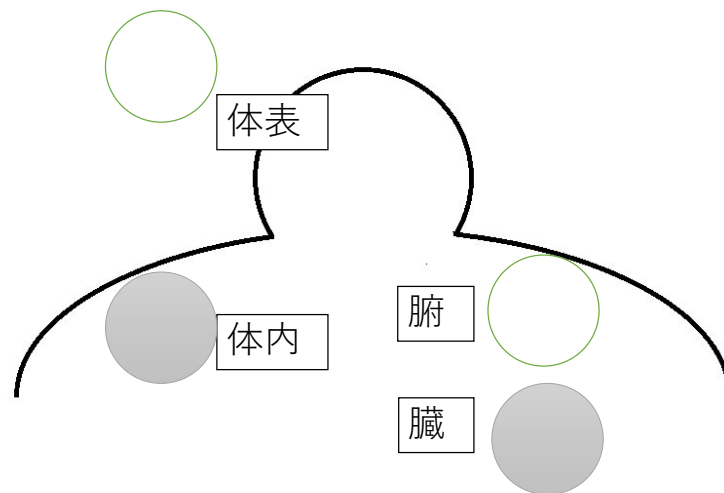
など

・ 陰陽 4 つの概念

	意味	例
	陰があるから陽がある	
	陰と陽は逆である	
	陰陽は移り変わる	
	陰陽は入れ替わる	

・中医学への応用

ア. 体の構造



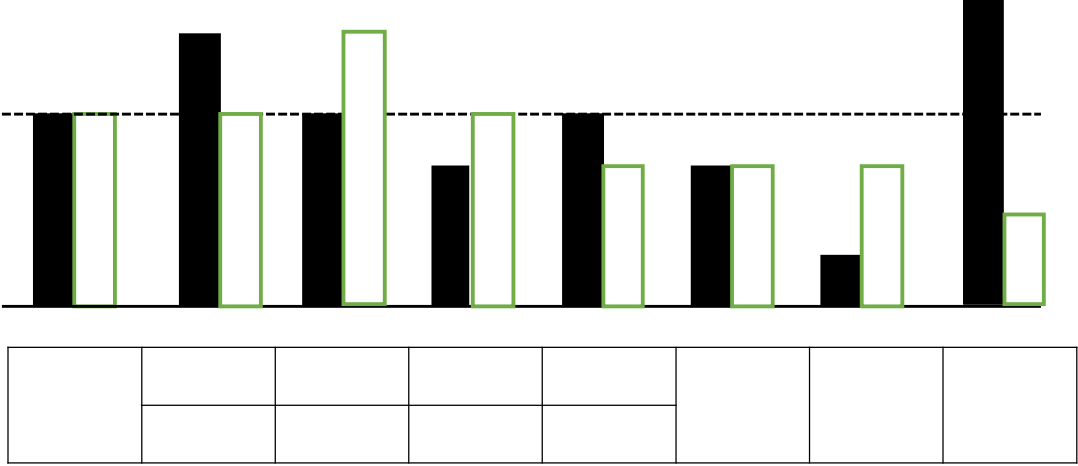
・中医学への応用

イ. 体の生理機能



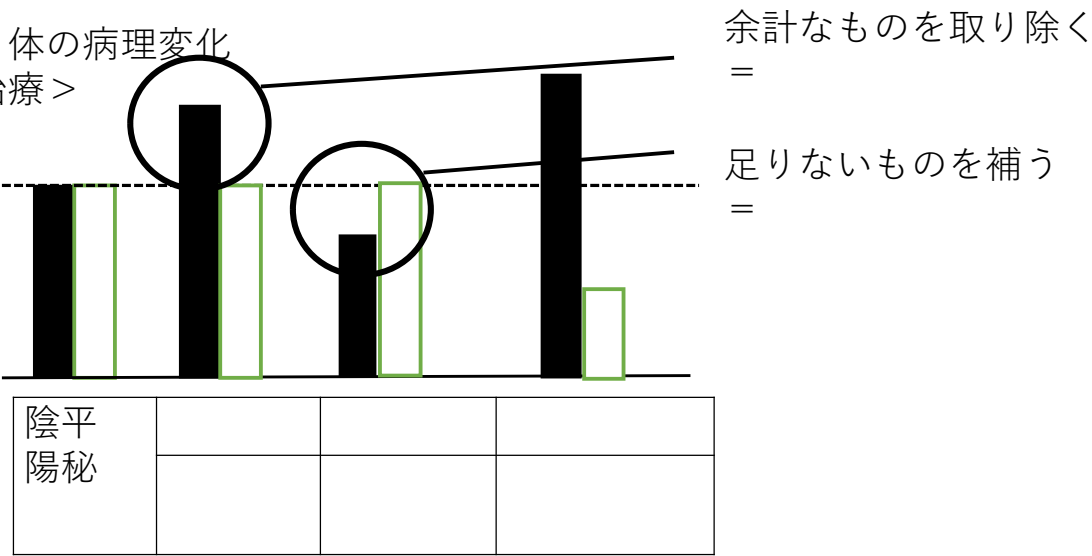
・ 中医学への応用

ウ. 体の病理変化



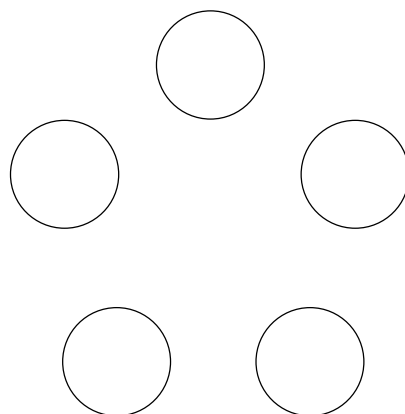
・ 中医学への応用

ウ. 体の病理変化
<治療>

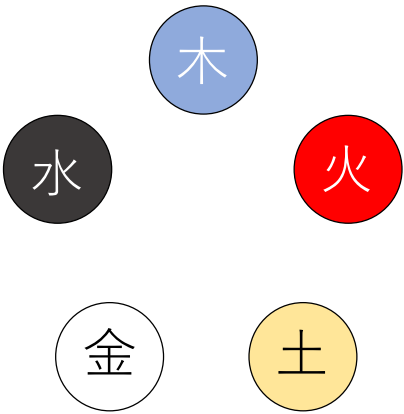


2. 五行

2つに分ける陰陽論だけでは無理があり、
5つに分ける五行論も用いるようになった。



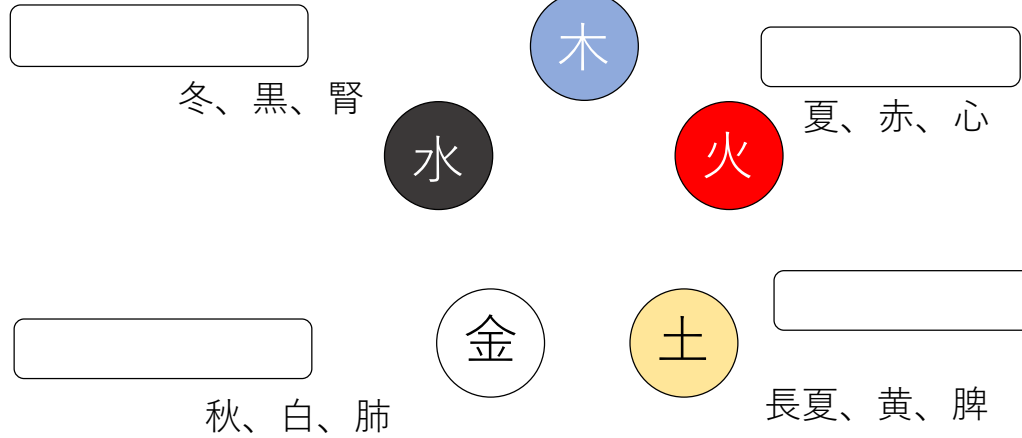
五行	色	臓	腑	季節	気候	味
木	青		胆			酸
火	赤		小腸			苦
土	黄		胃			甘
金	白		大腸			辛
水	黒		膀胱			鹹



➡	相生の関係 = アクセル
➡	相克の関係 = ブレーキ
➡	の関係 =
➡	の関係 =

・中医学への応用

ア. 臓腑への役割付け

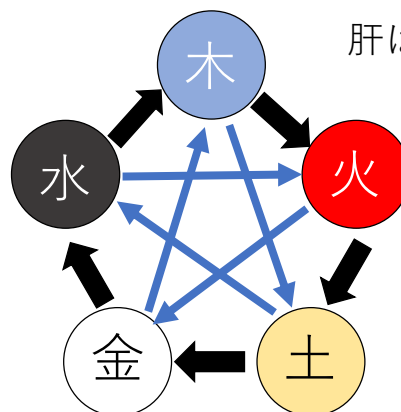


・中医学への応用

イ. 臓腑の生理関係

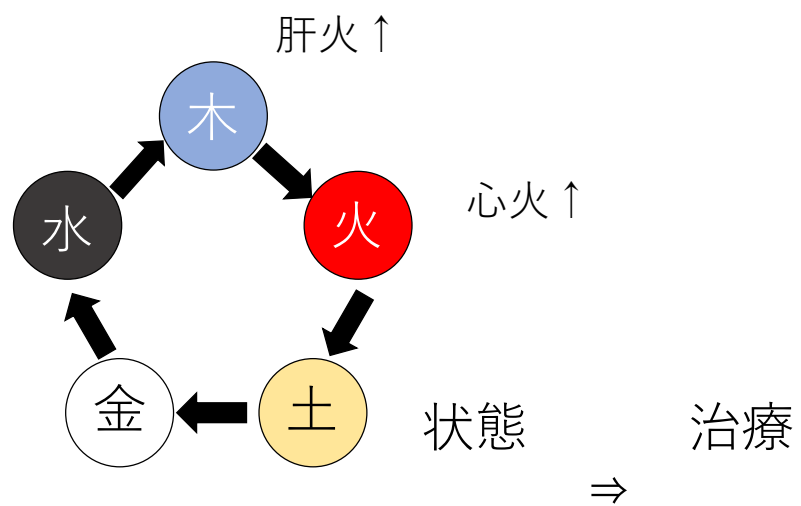
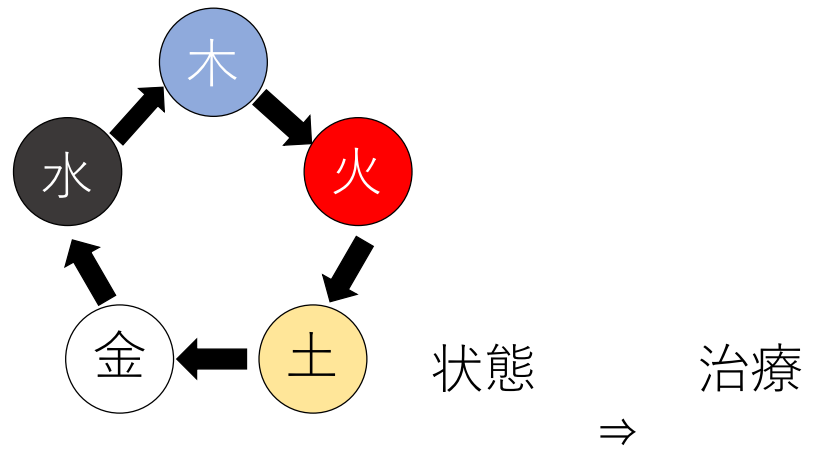
例えば

肝は 进行して (相生)
を抑制する (相克)



・中医学への応用

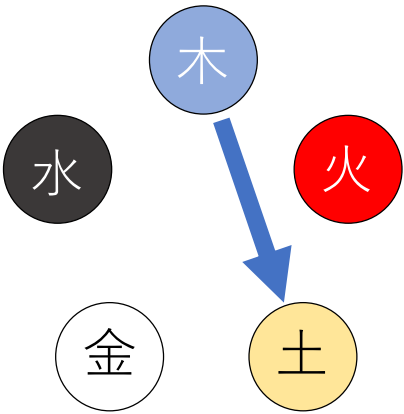
ウ. 臓腑の病理関係



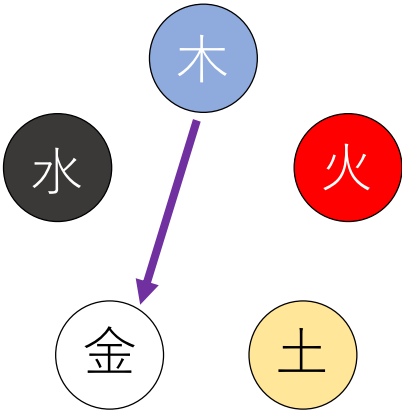
※ただし、子病及母は心肝間のみ

相生の順で確立された治療原則

滋 涵 法	滋腎涵肝法	腎を補って肝を補う
培 生 法	培脾生肺法	脾を補って肺を補う
相生法	肺腎相生法	肺と腎を共に補う
益 補 法	益心補土法	本来は ⇒ を補って を補う を補って を補う



関係



関係

相乗・相侮関係への治療は
「抑強」と「扶弱」

抑 扶 法	抑肝扶脾法	肝を抑えて脾を活かす
左 平 法	左肺平肝法	肝を抑えて肺を養う